

決 議 書

平成20年6月16日

臼杵市議会

「大分県高校改革推進計画 後期再編整備計画」の再考を求める決議

平成20年4月30日、県教委から「大分県高校改革推進計画 後期再編整備計画の中間まとめ」が発表された。

その内容は、臼杵市から臼杵商業高校と野津高校がなくなり、海洋科学高校は水産系学科1学級だけに縮小されるとする素案と何ら変わらないものであった。

素案発表後、地域住民や各高校の同窓会・PTAなど、多くの市民からの意見や要望が出され、臼杵市議会においても、執行部とともに地域を代表して臼杵商業高校と野津高校を統合して存置するよう要望を行ったところである。しかし、「中間まとめ」にはそれら市民の声が一切反映されていなかったことは、誠にもって遺憾である。

県教委は、高等学校再編整備懇話会等を開催して、広く意見を求め計画をまとめたとしているが、市町村の代表たる首長や議会に対しては、未だもって十分な意見を聴取する場を持たないままである。

このまま、高校再編が実施されると、臼杵市内にある高校は4校から1校に激減してしまう。市内の子どもたちの教育環境の悪化はもちろんのこと、臼杵市の将来にも影響する由々しき事態である。

市内の高校が実質臼杵高校だけになった場合、新たに100人の子どもたちが、市外に通わざるを得なくなり、通学費、通学時間の増加など、生徒・保護者にとって大きな負担が生じることは、極めて深刻な課題であり、ぜひとも解消しなければならない。

また、今後の日本は、過去50年の成長時代と異なり、地域の活力が国を支える時代となる。大分県においても、合併後の周辺部対策を重点施策に掲げ、地域活力の維持向上に取り組んでいる。まさに今こそ、地域にとって必要な人材を育成する場が求められており、地域を愛し、地域に残り、地域と家族を支えていく人材を育成するために、生活に必要な知識と経験を積み、実社会ですぐに役立つ教育を行う「地域の高校」が必要である。

高校再編は、臼杵市にとって地域そのもののあり方にもかかわる最重要課題である。よって、臼杵市議会は、大分県教育委員会に対し、地域住民の意向を再度検証し、住民の理解が得られるよう「大分県高校改革推進計画 後期再編整備計画」の再考を強く求めるものである。

以上、決議する。

平成20年6月10日

臼 杵 市 議 会